

国

語

(解答番号)

1

)

39

(

国 語

試験時間60分

〔注 意〕

1. この問題冊子は指示があるまで開いてはいけない。
2. 受験番号が正しく記入・マークされていない場合は0点となる。
3. 解答はすべて解答用紙の所定欄にマークすること。例えば、問題文中に **10** と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように **解答番号10の解答記入欄の③**にマークすること。正しくマークされていない場合は採点できないことがある。

(例)

解答番号	解答記入欄 (マーク)									
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

4. 問題冊子の各ページの余白は自由に使用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
5. 試験終了後、解答用紙は通路側に置くこと。なお、問題冊子は持ち帰ること。

〈マーク式についての注意〉

1. 機械が読み取って採点するので、折り曲げたり汚したりしないこと。
2. マークはHBの鉛筆で枠の中を濃く塗りつぶすこと。
3. 1つのマーク欄には1つしかマークしないこと。
4. 訂正はプラスチック消しゴムでよく消し、消しきずはきれいに取り除くこと。
5. 所定欄以外には何も書かないこと。

問題一 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

近代化は、前近代の伝統的束縛から人間を解放し、社会において生産された富の公正な再分配を徐々に可能にしていることによって近代産業社会を生み出してきた。しかし、近代化の進展に伴い、生産力が飛躍的に増大するにつれて、人間に対するリスクと「キョウウイ」の潜在的可能性もまた、幾何級数的に顕在化してきた。近代化の過程は、自らの技術と経済の発展がもたらしてきたリスクをも問題として処理せねばならないという点で、自己再帰的とならざるを得なかったのである。では、テクノロジーが生み出した様々なリスクを、いかに認知し、管理し、ときに回避しときに隠蔽していくべきか。そのような課題に直面した現代社会のありようを、ウルリヒ・ベックは「リスク社会」と呼んでいる（邦訳題名は『危険社会』だが、原題 Risikogesellschaft に合わせて「リスク社会」と呼ぶことにする）。かつて、近代産業社会は、自らの生産力の増大によってもたらされた社会的富の再分配によって、貧困と闘ってきたが、その陰で、その予期せぬ副作用として、富の源泉である自然環境が汚され破壊され続けてきたことに無頓着であった。その結果、近代化の延長線上に、イが発生してきたというわけである。ここでリスクと呼ばれるものは、地球規模で進む人類全体に対するリスク、たとえば自然環境の破壊や、核分裂や核廃棄物によって発生するリスクのことを指している。ベックの著作が刊行された一九八六年が、チェルノブイリ原子力発電所の爆発した年であることを思い起こせば、その後の同書の影響力の大きさが容易に察せられるだろう（そして、二〇一一年に「フクシマ」を経験した我々にとって「リスク社会」の「キョウウイ」はひととき真切かつリアルである）。

では、このようなリスク社会にあつて、我々が選択すべき倫理体系は果たして統治の倫理であろうか、それとも市場の倫理であろうか。そもそも、水や空気の汚染、あるいは放射能汚染のように、顕在化しないまま、国境も貧富の差も宗教も何もかもを超えて地球規模で蔓延していくリスクに、排他的な領土占有に動機づけられた統治の倫理は、原理的に対応不可能であるだろう。金融市場に典型的なように、グローバルな展開が可能なのは、市場の倫理である。しかし、富の配分に際して、公正な取引は十分に規範的効力を発揮し得るが、リスクの配分に際して、何がどのように取引されるのであろうか。たとえば、発

展途上国の二酸化炭素排出権を先進国が買い取るという形での取引は、地球温暖化というグローバルなリスクに対して、決して有効な回避策とは言えないのではないか。ここには、c「一見すると市場の倫理に服しているようだが、実は排他的な統治の倫理が紛れ込んだ国家同士の相互自己充足しか見出されない」。「取る」(take) のでも「取引する」(trade) のでもなく、d「地球規模のリスクを互いに「分かち合う」(share) ための第三の倫理体系が今こそ強く求められるべきではないだろうか」。

福島原発事故の後、日本中の多くの人が、原子力関係の「専門家」と言われる人たちに大きな信頼と期待を寄せ、それが裏切られた結果、それまで以上に大きな失望を味わったことは記憶に新しい（同様のことは、コロナ禍における医療・保健関係の「専門家」についても言えるだろう）。しかし、よくよく考えてみれば、専門家とは予言者や占い師などではなく、あくまで専門領域に関して何をどこまでわかっている、それ以外のことはまだわかっていない、ということを明確に知っている人のことに過ぎない。たとえば、医者は患者の病状を調べ、健康体へと回復するための治療法を見出すことができるという意味で病気と健康に関する領域の専門知をもつ者である。同様に、建築家は、家に関する領域の専門知をもつ専門家である。それゆえ、病気になれば医者にかかり、改築するときは建築家に頼むのである。しかし、末期医療において、いつ延命治療を止めるべきかについて悩んだ患者が、医者にその答えを求めたとしても、医者にもその正しい答えはわからないはずである。なぜなら、人間が生きているということの意味とは何か、よく生きるとはどういうことか、人は死ぬとどうなるのか、そうした問いは、厳密には医師の扱う専門領域を超えた問いだからである。もし、医者が自らの専門的技術知の限界を超えて、そのような問いの答えを知っているかのように自ら思っているとしたり、それは傲慢な思い上がり過ぎない。

ソクラテスのいわゆる「不知の知」とは、まさにこのことを指している。ソクラテスは決して無知を「シヨウレイ」しているわけではない。医師という専門領域において、何も知らない無知な者に誰も病気を治してもらおうとは思わないし、そもそもそのような者は医者と呼ばれはしないのである。しかし、医師知であれ建築術知であれ、領域的な専門知が扱うことのできない、領域を超えた問い、たとえば、よく生きるとはどういうことか、幸福とは何か、どうやって自らの死に立ち向かえばよいのか、といった問いが少なからずある。普段はことさらに問うこともなく過ごしているのに、何か大きな挫折を経験する

と、自らの生き様を振り返り、これからの人生に深く悩むことが誰にもあるはずである。そんな時、あなたは誰のところに相談に行くだろうか。そもそも、「私がいかに生きるべきか」という問いに答えることのできる領域的専門知などありはしない。古い師まがいの似非専門知ならいくらでも名乗りを上げることだろうが、（い）専門知と言いつても専門知と異なる限り、そこには必ず限定された専門領域があるはずであり、それを越えた事柄に関しては決して無責任に答えたりはしないというのが本来の専門家というものである。つまり、ソクラテスの言う「不知の知」とは、そのように自らの専門領域を超えた事柄については何も知らないということを知っているという意味なのである。

いや、一人だけ専門家がいないのではないか、それが哲学者じゃないか、そう思っている人がいるかもしれない。確かに哲学者が、「人はいかに生きるべきか」を考へるといのは、いかにもありそうなことである。しかし、そのような問いをもつということと、その答を知っているということとはまったく別である。よく知られているように、「哲学」という語の原義は、ギリシア語の「フィロソフィア」であるが、その意味は「知恵への愛」ということであって、決して知恵そのものを意味してはいない。

したがって、環境汚染や放射能汚染のような地球規模のリスクに対しても、それぞれの専門家は、現時点でわかっていることとまだ知られていないことについて区別できる人であり、その限りで少なくとも今何が知り得ないかを知っている人である。また、そのようなリスクを前にして「私はいかに生きるべきか」「何を為すべきか」という問いが、いかなる領域的な専門知にも答を見出せない、その意味で哲学的な問いである限り、たとえ哲学者であろうが（あるいは哲学者だからこそ）、その答を知っている者ではあり得ない。しかし、少なくとも、そのように我々には知り得ない事態を^③シヨウライするリスクに今直面しているということを知ることができる。この意味での「口」こそ、先に第三の倫理体系として掲げた「分かち合う」倫理を画定する最初の規範と言えるかもしれない。もちろん、科学技術の進展は、今後も我々に多くの恩恵をもたらし続けてくれることだろう。しかし、そのような科学技術の進歩が、今我々の背に重くのしかかっている地球規模のリスクを来るべき未来に解消してくれるという可能性は限りなくゼロに漸近し、むしろ^①そのこと自体が人間の有限性を立証してしまう

という事実を自覚するところからしか、リスクを共に「分かち合う」という倫理体系を語り始めることはできないのではないだろうか。

（土橋茂樹『振り向きざまのリアル』による）

問一 傍線部(1)～(3)の片仮名に該当する二つの漢字と同じ漢字を使うものとして最も適切なものを、それぞれ①～④の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

① 金融キョウコウに陥る
 ② キョウハクされる
 ③ 不幸なキョウガイ
 ④ 予想外の快拳にキョウタンする

キョウ

イ

① イケイの念を抱く
 ② イシン伝心
 ③ キイの目で見られる
 ④ 親のイコウを笠に着る

① 定期点検をスイシヨウする
 ② 預金残高をシヨウカイする
 ③ シヨウジン料理
 ④ シヨウシヤな建物

シヨウ

レイ

① 近代日本社会のレイメイ期
 ② 叱咤ゲキレイする
 ③ ミヨウレイの女性
 ④ 幕府にレイゾクする大名

① 数寄屋建築のメイシヨウ
 ② シヨウドウにかられる
 ③ ビンシヨウな行動
 ④ オリンピックをシヨウチする

シヨウ

ライ

① 偉業をライサンする
 ② ヒライ針を立てる
 ③ 胸にキヨライする思い
 ④ 仕事をイライする

問二 波線部(a)の用例として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

- ① 地球環境に著しい変化が生じても人類は幾何級数的に適應できる能力をもつ。
- ② 経済的リスクを全く伴わない行政改革など幾何級数的にはあり得ないことだ。
- ③ 一子相伝を守る工芸品の技術は近代前から幾何級数的に伝承され現在に至る。
- ④ 幾何級数的に考えれば近代以降の人生の選択肢が広がった要因が理解できる。
- ⑤ 現代ではそれが誤報であっても多様な媒体を通して幾何級数的に拡散される。

問三 波線部(b)と、筆者が考える例に該当するものとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

- ① 人類が自然破壊に関して無頓着であったことを自ら反省し、破壊以前の世界に再び帰ることは不可能だと認識した。
- ② 破壊された自然環境を再びもとの姿に戻す企業の取り組みが、環境保護に熱心な人々の関心を集めるようになった。
- ③ 原子力発電は産業発展の一端を担ったが、一方で原発事故の危険性や核廃棄物の処理問題を抱えることになった。
- ④ 近代化が伝統的束縛から人間を解放し、富の公正な再分配を徐々に可能にすることで近代産業社会を生み出した。
- ⑤ 福島原発事故の後、多くの人たちが原子力関係の専門家に信頼と期待を寄せたが、それが裏切られ失望を味わった。

8

7

問四

空所イに入る最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

9

- ① リスクを回避する社会 ② リスクを甘受する社会 ③ リスクを看過する社会
 ④ リスクを認知する社会 ⑤ リスクを配分する社会

問五

波線部（c）の具体的な説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

10

- ① 地球温暖化というグローバルなリスクを、先進国が発展途上国の二酸化炭素排出権を買い取ることで回避しようとしても、こうした市場の倫理が通用するのは先進国のみで発展途上国には通用しない。したがって、双方の国家に通用する倫理体系である統治の倫理を用いてリスクを回避することが、従来われわれがとってきた方策であったということ。
 ② 発展途上国の二酸化炭素排出権を先進国が買い取るとは公正な取引が成立した市場の倫理に沿っているように見え、その取引によって先進国はより多くの産業発展の可能性を得、発展途上国は経済的に潤う。しかし、これは双方が自国の利益に満足するのみでおわる、排他的な統治の倫理を含んだ取引であるということ。
 ③ 先進国と発展途上国の間で二酸化炭素排出権を融通し合うことは、双方の国家に利益をもたらす、市場の倫理に適った方法である。しかし、そうした市場の倫理が強調されると、一方で統治の倫理が成り立たなくなると内政混乱を招き、結果として排他的な統治の倫理に則る方策をとらざるを得ないということ。
 ④ 経済的に豊かな先進国が発展途上国の二酸化炭素排出権を買い取るとは、公正な取引として市場の倫理に適っているように見える。しかし、二酸化炭素排出権を失うことで、発展途上国が産業を発展させ自力で国の経済を豊かにする可能性を失うことになり、結果的に先進国のみが発展し続けるという排他的な統治の倫理が透けて見えるということ。
 ⑤ 市場の倫理が働いて二酸化炭素排出権が発展途上国から先進国に移っても、地球全体での二酸化炭素排出量の総量に変化はない。したがって、市場の倫理に沿うだけでは、地球温暖化というグローバルなリスクに対して有効な回避策にはならず、問題解決のためには発展途上国と先進国の相互が満足する排他的な統治の倫理が必要不可欠だということ。

問六 波線部（d）と、筆者が提言する理由を説明したものととして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

11

- ① 統治の倫理も市場の倫理も前近代においては有効な倫理体系であったが、物事がグローバルに展開する近代においては根本的に見直さなければならぬ倫理体系だから。
- ② 国境も貧富の差も宗教も何もかもを超えて地球規模でリスクが蔓延していく社会にあつては、市場の倫理を用いても公正な取引は成立せず、リスク社会の問題を解消することができないから。
- ③ 排他的な領土占有に動機づけられた統治の倫理は、自国が抱えるリスクを解消するためだけに有効に働くものであり、他国では通用しない倫理体系だから。
- ④ 地球規模のリスクに対して、排他的な領土占有に動機づけられた統治の倫理では原理的に対応不可能であり、また市場の倫理をもってリスクを取引しても有効な回避策にはならないから。
- ⑤ 近代産業社会がもたらしたグローバルなリスクを解消するには、各国がそれぞれに選択してきた、統治の倫理と市場の倫理二つの倫理体系について議論し合い、その成果を地球規模で共有する必要があるから。

問七

波線部（e）と同じ意味で「いやしくも」を用いた例として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

12

- ① いやしくも政治家を名乗る者であるならば、不正に荷担するような言動は厳に慎まねばならない。
- ② いやしくもわたくしのような専門外の人間にとつては、平易な言葉で記された解説書はとでも有り難い。
- ③ いやしくもそのような事実があったならば、早急かつ誠実に対処するのが責任者としての義務だ。
- ④ いやしくも自社の利益追求に終始するばかりで、社会貢献を意識しない企業に将来性はない。
- ⑤ いやしくも首長の任を預かる身となったからには、不惜身命で職務に励む所存でございます。

問八

空所口に入る最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

13

- | | | | | | |
|---|-------------|---|------|---|-------|
| ① | リスク社会 | ② | 不知の知 | ③ | 知恵への愛 |
| ④ | 人はいかに生きるべきか | ⑤ | 哲学 | | |

問九

波線部 (f) を説明したものと最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

14

- ① 科学技術の進歩によって地球規模のリスクが解消されるという可能性が失われていくことは、地球上の人類が生存し続けるための倫理体系の構築には限界があると自覚させられるということ。
- ② 地球規模のリスクを解消する可能性が失われていくという事実は、生身の人間の知力には限界があることを示し、科学技術の進展の必要性を証明しているということ。
- ③ 科学技術の進歩が地球規模のリスクを解消する可能性を期待できないことは、この問題の解決のために人間の成し得ることには限界があると証明しているということ。
- ④ 科学技術の進展が今後も我々に恩恵をもたらし続けるであろうという展望が、すなわち科学技術の進歩に依存しなければ人間が進歩することができないという限界を示しているということ。
- ⑤ 人間に多くの恩恵をもたらす科学技術の進歩が、一方で人間に害を与える地球規模のリスクを生み続けるという現状は、科学技術の進展に制限をかける必要性を示しているということ。

問十

本文の主旨として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

15

- ① 環境汚染や放射能汚染のように顕在化しないまま地球規模で蔓延していくリスクには、統治の倫理では対応できないため、まず既存の市場の倫理に則り、さらに第三の倫理「分かち合う」倫理体系を築く必要がある。
- ② 近代化は前近代の伝統的束縛から人間を解放し、社会的富の公正な再分配を可能にしてきたが、一方で進化し続けるテクノロジーがさまざまなリスクを生み出してきたことをだれもこれまで問題視しなかったことは反省すべきである。
- ③ 地球規模のリスクに関する問いについて、それぞれの領域の専門家が今何がわかっていて何がわかっていないのかを議論し合い、領域的専門知を「分かち合う」ことが望まれる。
- ④ 地球規模で蔓延するリスクに対しては、統治の倫理や市場の倫理では対処できず、科学技術の進歩がそれを解消することも望めない今、リスクを「分かち合う」新しい倫理体系が必要である。
- ⑤ 先進国からの経済支援と引き替えに発展途上国が地球規模のリスクを引き受けるという取引は、市場の倫理に沿ってはいるがリスク社会の問題解決にはつながらないため、リスクを「分かち合う」第三の倫理体系を構築すべきである。

問題二 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

『アメリカ人であることの意味』(一九九二年)、『寛容について』(一九九七年)などの一連の仕事でウォルツァーは、アメリカ合州国が「移民社会」であることの重要性を力説します。彼によれば「移民社会」とは、強い イ を標榜する国民国家(ネーション・ステート)とも、多民族を異質なままに ① ホウガンする帝国とも、複数民族の均衡の上に成り立つコンソシエーション(ベルギーなど)とも異なる独特の存在です。そして、そうであるがゆえに、史上まれなまでに ロ な社会でありえたのであり、これを守っていかなければならないというわけです。ウォルツァーによると、国民国家は実際にはある固定的な多数派(マジョリティ)と、固定的なマイノリティから成っており、そこには多元性がありません。これに対し帝国は、一見、内部に複数の文化的共同体が並存しており、それなりに多元的に見えます。実際、イスラム教を基本としながら、キリスト教などの他の宗教共同体に一定の自治権を与えたオスマン・トルコのシステムを、キムリツカからはかなり高く評価しています。しかしウォルツァーは、それら各宗教共同体内部が抑圧的であったという理由で、帝国をしりぞけるのです。コンソシエーションは、おおむね不安定であるとして却下されます。そこで「移民社会」ですが、ウォルツァーがそれに関して最も重視する点は、そこでは a すべてのアイデンティティが、例えばアイリッシュユニアメリカンという具合に「ハイフン付き」 になっていることです。自由主義者の中には、これを公/私区分と対応させて、政治的にはアメリカンだが文化的にはアイリッシュユニアメリカンと解釈する向きもありますが、これは間違いであり、文化的にも政治的にも「アイリッシュユニアメリカン」なのだと言いますが、かといってアイランドの人々と同一というわけでもない。他のどこにもないアイデンティティであり、これらが多元的に同居しているのがアメリカ性の本質である、ということです。ここでウォルツァーは、合州国内部に差異があることを重視しつつ、それぞれの差異が国境の外の何ものかと結びつくことを極度に警戒していると言えましょう。その場合、主として想定されているのは、「アフリカ中心主義」などであると思われまます。そして、キムリツカがカナダ的状况に専念する傾向

を示しているとすれば、ウォルツァーは b 合州国的状況の有利さを強調します。最近では、従来同質性を標榜してきた国民国家が解体の危機に直面しているが、もともとエスニックな ハ を実践しているアメリカには、そうした問題点は本来ないのであって、一部の活動家がことさらにエスニック・アイデンティティを煽り立てているにすぎないというのです。しかもウォルツァーは、こうした「移民社会」としての性格は、合州国に最も典型的であるとしても、それに限られるものではないとも言います。彼によれば、最も典型的な国民国家と見られてきたフランスでさえ、現状では「移民社会」と見ることもできるのです。

このような議論に対しても、さまざまな批判が可能です。ウォルツァー自身が想定する論点を含め、整理してみましよう。第一に、ウォルツァーは「移民社会」であることを強調するあまり、征服された先住民や、奴隷として輸入されたアフリカ系などの存在を軽視しているのではないか。これは、まさにキムリツカの立場から提起される疑問です。これに対しウォルツァーは、アメリカの多元主義が形成された時期には、今日では活動的なそれらのマイノリティはみな「政治的に無力で社会的に不可視であった」から、彼らが ② カンジョウウに入っていないなかったのもやむをえない。そして、たしかにそうした例外もあろうが、全体としては、合州国は個人や家族単位で流入した移民によって構成され、移民は国中に分散したため、エスニックな領土性もほとんどない。このことこそが大事である、というのです。ここでウォルツァーは、何をしているのでしょうか。彼はアメリカ人の(そして程度の差こそあれ他のすべての人々の)移民としての同質性を強調することによって、ある特定の^{人々}だけが「ノマド性」(ニ 性)によってマークされるような事態を避けようとしていると考えることができます。ウォルツァーは自分がユダヤ系(ジューイッシュユニアメリカン)であると公言していますが、ユダヤの人々の悲劇は、ニ 的マイノリティとしての迫害の歴史でした。こうした経験への学び方は大きく二つあるようです。一つは、同質性と定住を前提とする国民国家システムの中に自分たちも場所を得ようとする方向、すなわちユダヤ人だけが定住する国民国家をつくらうとする方向であり、言うまでもなくイスラエル建国はこうした考え方を引き継いでいます。それはたしかに、二〇世紀の現実の中で、迫害の可能性を低くする一つの選択肢だったかもしれませんが、それがパレスチナ人という新たな難民を

生み出すことによって初めて実現したことも否定できません。そしてもう一つの学び方が、おそらくここでウォルツァーが示しているような、(c)同質性と定住そのものに挑戦する方向、つまり長い目で見れば、あらゆる人々は流れ者の子孫であり、その点において平等であるという考え方です。

(杉田敦『境界線の政治学』による。一部改変)

問一 傍線部(1)、(2)の片仮名に該当する二つの漢字と同じ漢字を使うものとして最も適切なものを、それぞれ①～④の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。 16 19

(1) 16

- ① その後、彼は無罪ホウメンとなった
- ② 再会した友とホウヨウする
- ③ このチラシはホウソウ紙として使い勝手がよい
- ④ 美しいレイホウは山岳信仰の対象だ

ホウ

ガン

17

- ① ガンチクのある言葉に感銘を受けた
- ② 彼は昔からガンメイな性格である
- ③ 全員がイチガンとなつて戦う
- ④ アイガンの眼差しを向けられた

(2) 18

- ① 内部カンサを受ける
- ② 骨董品の真贋をカンベツする
- ③ 諸般の事情をカンアンする
- ④ 企画展をカンランする

カン

ジョウ

19

- ① ジョウセキだけでは勝負には勝てない
- ② 彼の説明はジョウチヨウである
- ③ 大願ジョウジュを祈念する
- ④ ジョウチヨウが不安定になる

問二 空所イ～ニに入る最も適切なものの組合せを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。 20

- | | | | | |
|---|-------|------|--------|-------|
| ① | イ 多元性 | ロ 厳格 | ハ 民族主義 | ニ 永住 |
| ② | イ 同質性 | ロ 寛容 | ハ 多元主義 | ニ 非定住 |
| ③ | イ 民族性 | ロ 厳格 | ハ 国家主義 | ニ 脱領土 |
| ④ | イ 文化性 | ロ 寛容 | ハ 民主主義 | ニ 流動 |
| ⑤ | イ 均質性 | ロ 寛容 | ハ 包摂主義 | ニ 放浪 |

問三 波線部(a)にいう例が示す内容を説明したものとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。 21

- ① 他の国家には見られない、二つのエスニシティが同時に共存しているということ。
- ② 当事者にしかわからない、言語化が極めて困難な文化的価値観であるということ。
- ③ 相反する二つの民族的概念が、否定し合いながら共存しているということ。
- ④ 他のどこにもないものであり、「移民社会」を特徴づけるものであるということ。
- ⑤ 実際には存在しないが、空想上の存在として言及されるということ。

問四

波線部 (b) の具体的な説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

22

- ① 多様な民族が多元的に同居するアメリカは、国民国家の解体とは本来的に無縁であるということ。
- ② 既に同質性が広く浸透しているアメリカは、その他の「移民社会」とは異質であるということ。
- ③ アメリカでは、多様なエスニック・アイデンティティが拮抗し、一つの国家的特徴を成しているということ。
- ④ アメリカはカナダやフランスとは異なり、すでにエスニックな同質性からの脱却を果たしているということ。
- ⑤ 既に多元主義を実現したアメリカは、他の国家に比べて移民問題に取り組む困難さに直面しないということ。

問五

波線部 (c) の具体的な説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

23

- ① それぞれの民族が、互いの文化的差異を認め合ったうえで、一つの同質性の獲得に向けて励み、その上で固有の異質性を獲得していくような、新たな「移民社会」の構築を目指すということ。
- ② 特定の民族の優遇や迫害を防ぐために、複数の文化的共同体が併存するアメリカ社会のような、領土性に縛られず、国境の外にも広がる理念や主義主張を支えられた「移民社会」を作り上げることを目指すということ。
- ③ 移民としての同質性を強調することは、特定の人々をノマド性によって困い込む事態を招くため、同質性と定住を前提にした国民国家システムのなかに自分たちの場所を得る方向性とは異なる方途を模索すること。
- ④ さまざまなエスニック・アイデンティティをもつ「移民」同士が、それぞれ特定の領土に住まい、各々の差異を認め合いながら交流を深め、より拡大的な新しい「移民社会」の構築を目指すということ。
- ⑤ あらゆる人々は流れ者の子孫であるという点で平等であるのだから、内部に複数の文化的共同体が併存したまま成り立つ、これまでにない新たな帝國的システムの可能性を模索するということ。

問六

本文の内容に即した記述として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

24

- ① ウォルツァーは、オスマン帝国の宗教統治システムを肯定しているが、キムリツカは、それぞれの宗教共同体の内部が抑圧的であったことを理由に反発している。
- ② アメリカにおける「移民」たちはすでに同質性を獲得しており、民族の壁を超えた一つの「アメリカ人」としての絶対的なアイデンティティを確立している。
- ③ 特定の居住区をもたないマイノリティは迫害を受けるおそれがあるため、ウォルツァーは民族ごとの差異ではなく、大きな「移民」としての同質性を強調している。
- ④ 同質性によって成り立つ国民国家は「移民」の流入によって解体に向かっており、定住していた国民たちは次第にエスニックな領土性を失いつつある。
- ⑤ キムリツカは、国民国家に「移民」が流入することによって、同質性によって裏付けられていた固定的なマジョリティの権利が奪われてしまうことを危惧している。

問題三 次の各問に答えなさい。

問一 慣用表現を用いた(1)～(5)の文の【 】に当てはまる語として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。 25 29

(1) よくないことだとわかっていたが、兄弟で【 】合わせて学校をさぼった。 25
 ① 鉢 ② 釣り ③ 示し ④ 混ぜ ⑤ 見

(2) 彼とは幼馴染で長らく一緒に仕事もしてきたから、【 】のおけない関係だ。 26
 ① 嘘 ② 溝 ③ 信 ④ 気 ⑤ 隔

(3) 外交交渉が平行線をたどり、まったく【 】があかないので首相もおかんむりだ。 27
 ① 間 ② 埒 ③ 隙 ④ 鍵 ⑤ 体

(4) はじめての演説とは思えない【 】に入った様子で、彼女は聴衆を魅了した。 28
 ① 同 ② 動 ③ 胴 ④ 撞 ⑤ 堂

(5) 結婚を機に、いよいよここからが正念場だと【 】を固める。 29
 ① 頤 ② 鬢 ③ 臍 ④ 顎 ⑤ 身

問二 (1)～(5)の文の傍線部を言い換えた言葉として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。 30 34

(1) あの二世政治家に新党結成をそそのかすようなことをしたのは、例の政界の黒幕だ。 30
 ① 強要する ② 教唆する ③ 勧奨する ④ 推認する ⑤ 承服する

(2) 経済政策のかじ取りに失敗した政府に対し、国民の不满はたまるばかりだ。 31
 ① 席卷する ② 懊悩する ③ 反目する ④ 鬱積する ⑤ 負託する

(3) よりよい保育環境になるようにと、園長は保育士の健康にも心をくたく。 32
 ① 腐心する ② 回心する ③ 戒心する ④ 決心する ⑤ 変心する

(4) 懲戒免職になった総務部長は、出入りの業者となれあうことで会社の金をこまかしていたらしい。 33
 ① 謀反する ② 近接する ③ 結託する ④ 連動する ⑤ 着服する

(5) 人気はさておき、実力の面では彼にならぶ舞台俳優はいないだろう。 34
 ① 面立する ② 捻出する ③ 高配する ④ 匹敵する ⑤ 鼎立する

問三 (1)～(5)の文の傍線部(a)、(b)、(c)について、表記または言葉の使い方の正誤の説明として最も適切なものを、それぞれ①～⑧の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

35

39

(1) (a)捕足したい、(b)野性動物の行動を、ドローンで追跡するプロジェクトが、(c)始動した。

35

- ① aだけが誤り ② bだけが誤り ③ cだけが誤り ④ aとbが誤り
⑤ aとcが誤り ⑥ bとcが誤り ⑦ aとbとcが誤り ⑧ 誤りはない

(2) 会社の危機に際し、(a)苦汁の決断で、(b)辞意を表明した社長を、(c)遺留する。

36

- ① aだけが誤り ② bだけが誤り ③ cだけが誤り ④ aとbが誤り
⑤ aとcが誤り ⑥ bとcが誤り ⑦ aとbとcが誤り ⑧ 誤りはない

(3) あの裁判長は、(a)判例をこえる、(b)量刑を、(c)課さないという評判だ。

37

- ① aだけが誤り ② bだけが誤り ③ cだけが誤り ④ aとbが誤り
⑤ aとcが誤り ⑥ bとcが誤り ⑦ aとbとcが誤り ⑧ 誤りはない

(4) (a)不祥事の原因について上層部はたがいに、(b)責任転嫁ばかりしているが、重要なのはきちんとした、(c)前後策を考えることだ。

38

- ① aだけが誤り ② bだけが誤り ③ cだけが誤り ④ aとbが誤り
⑤ aとcが誤り ⑥ bとcが誤り ⑦ aとbとcが誤り ⑧ 誤りはない

(5) 生活費を、(a)節約しても、決して、(b)窮屈な感で暮らすことにならないよう、(c)裁量していく自信はある。

39

- ① aだけが誤り ② bだけが誤り ③ cだけが誤り ④ aとbが誤り
⑤ aとcが誤り ⑥ bとcが誤り ⑦ aとbとcが誤り ⑧ 誤りはない